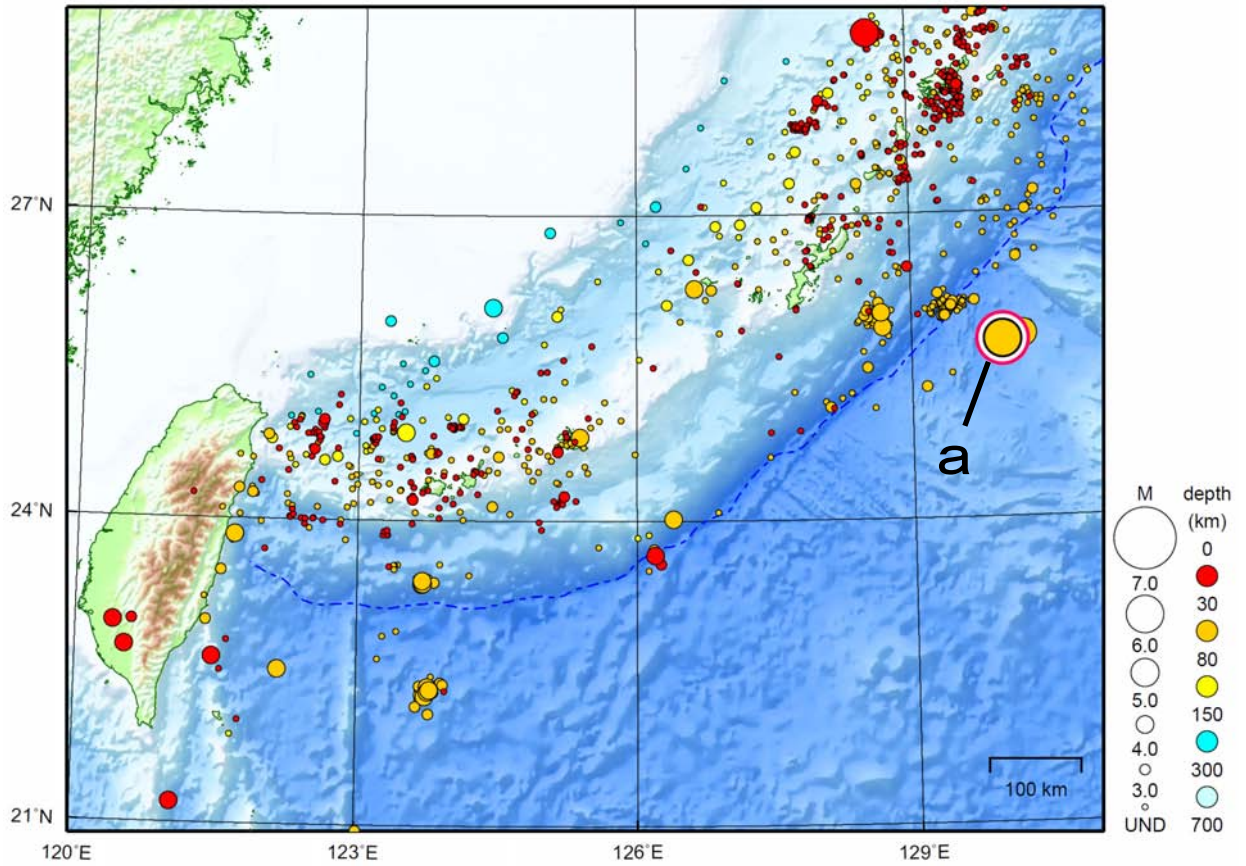


# 沖縄地方

2010/05/01 00:00 ~ 2010/05/31 24:00

N=2204



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

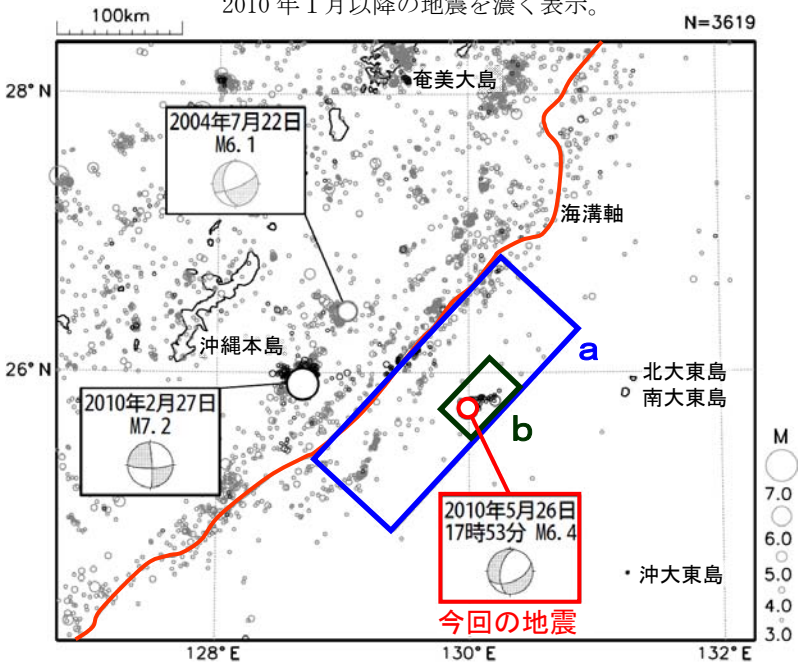
a) 5月26日に南大東島近海で M6.4 の地震 (最大震度4) が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

# 5月26日 南大東島近海の地震

震央分布図 (1997年10月1日~2010年6月5日、 $M \geq 3.0$ 、深さ0~100km)  
2010年1月以降の地震を濃く表示。 N=3619

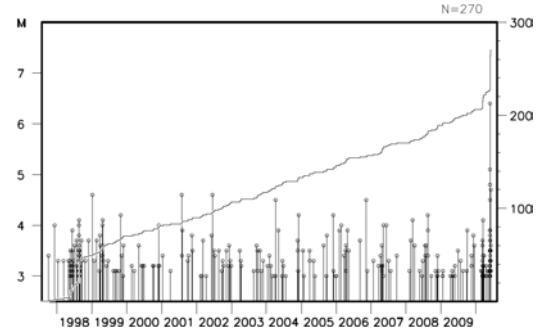


図中の発震機構は全て気象庁による CMT 解である。

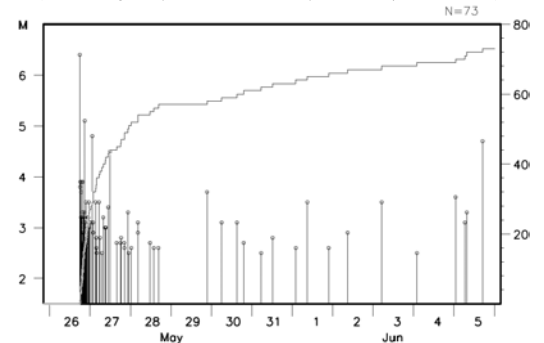
2010年5月26日 17時53分に南大東島近海で M6.4 の地震 (最大震度4) が発生した。この地震の発震機構 (CMT 解) は北西-南東方向に張力軸を持つ正断層型である。6月5日現在、余震活動は継続している。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央が位置する海溝軸よりも沖合の領域 (領域 a) では、M4~5 程度の地震がしばしば発生しているが、M6.0 を超える地震は発生していなかった。

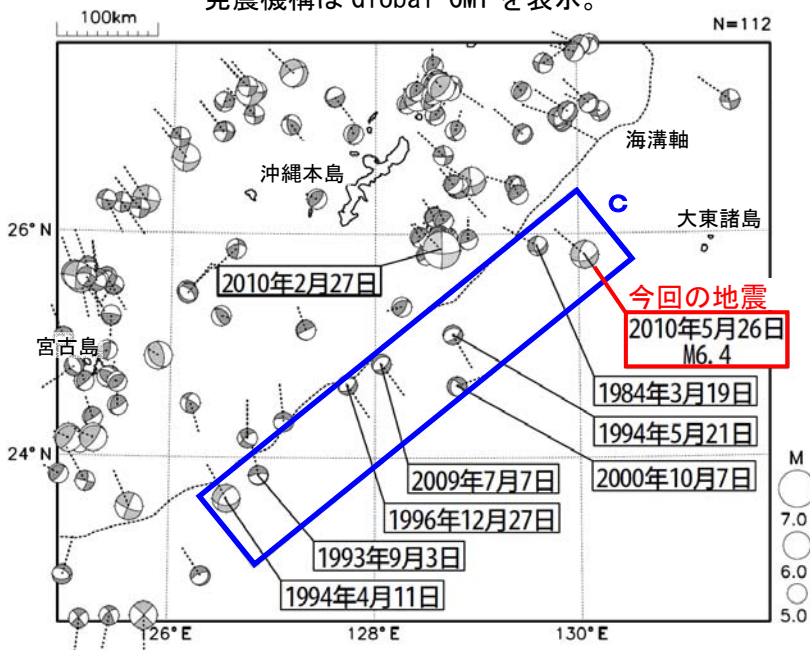
領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図



領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図 (2010年5月26日~6月5日、 $M \geq 2.5$ )



発震機構の分布図 (1976年1月1日~2010年5月31日、 $M \geq 5.0$ 、深さ0~100km、張力軸表示)  
発震機構は Global CMT を表示。 N=112



今回の地震の震央周辺における 1976 年以降の発震機構の分布を見ると、海溝軸よりも沖合の領域 (領域 c) では過去に M5~6 程度の地震がしばしば発生している。今回の地震を含むこれらの地震の発震機構の大半は、フィリピン海プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ正断層型である。

領域 c 内の地震活動経過図

